

# たんぽぽだよ!



## 運を引き寄せる

### コミュニケーション

理事長 苅部 一夫



龍鳳にもコロナが襲来し、皆様には大変ご心配をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。現在はピークを過ぎ快復してきておりますことをご報告いたします。

この間現場では何週間も日々ウイルス阻止の苦戦を強いられました。入所施設では職員も次々と感染しました。利用者様の命を支える仕事に果敢に立ち向かう龍鳳の職員たちの姿には理事長として感服してきました。私は、このような闘いの志気を支えてきているのは、何より職員間の信頼とプラスのコミュニケーションではないかと考えています。

北京オリンピックで話題になったカーリングのロコソラーレ。このチームのエピソードからは、数々のことを教えられます。

テレビ中継で彼女たちは、終始しゃべっています。それも大声で。実況中継のように投げたストーンのコースや曲がり方を言葉にしています。しかも全員が笑顔で。対戦相手の眉間に皺を寄せた厳しく怖いような目つきや、ほとんど無言で試合を進めている様子と比較すれば瞭然です。あきらかにロコソラーレというチームが醸し出している雰囲気は、他チームとは違います。彼女たちはこうしたコミュニケーションをメンバー全員で意識的に行っているのです。きっかけは、チーム

の成績が思わしくなかったとき、何が敗因かを話し合っただけです。その結果、「自分たちには『運』がない。」そうであるならば、「自分たちに『運』を引き寄せることをしよう。」となり、その具体的な行為が「コミュニケーションをとること。それもプラスの内容を気兼ねなく伝えること。」になったのだそうです。

確かに中継映像を見ると、ストーンが手元から離れた瞬間から、「いいよー」「曲がらない」などを視点の違うメンバーからリアルな情報発信をしています。狙い通りのコースであれば、「ナイスー」と賞賛の声が瞬時に聞こえます。思い通りにいかなかったときでも、「笑顔」を伝えていきます。そこには、分析とアイディアの言葉はあっても、決してマイナスの言葉はありません。

負け試合の直後の反省会では、敗因は「ナイス」「ありがとう」の声掛けが足りなかったことだと、常にプラスのコミュニケーションを強く意識していたことがわかります。そのことこそが「運」を引き寄せる一番の方法だと信じているのだと思いました。

そんなロコソラーレも、予選5勝4敗でメンバーも誰もが準決勝敗退を覚悟しただろうそのとき、奇跡は起きます。まるで彼女たちの言葉通り「運」を引き寄せ、みごと決勝まで進み、銀メダルをとることができたのです。

私は、コロナが龍鳳を襲ったとき、これと同じことが職場の中でも起こっていたのではないかと考えています。「運」は、決められたものではなく、自分たちで変えられるものだと信じて、プラスのコミュニケーションがとれる職場づくりに努めていきたいと思えます。

# 4月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16 開所日
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29 昭和の日	30



## 研修研究・人権プロジェクト課より

研修課では、主に職員の希望する研修への推進やたんぽぽ所内研修の組み立てを行っています。

今年度は、オンライン研修が整備され職員は積極的に外部研修に参加することができました。また、毎月1回講師を迎えて行う所内での研修も受講してきました。研修のテーマは『1. 利用者の高齢化と重症化に伴い必要となる知識について学ぶ。2. 発達障害のメンタルヘルス。3. 権利擁護について学ぶ。4. 職員の知りたいことを学ぶ』の4本の柱を立て、たんぽぽの事例と重ね合わせ研修を進めてまいりました。

私たち職員は日々変化する状況の中で、利用者の普段の様子をしっかりと見守り、変化に敏感に気づく力を付け支援させて頂けるよう、研修で培った知識を支援の現場で活かしていきたいと思っています。



## ～就Bの一年を振り返って～

今年度の就Bでは「個別支援計画の作成・実施」「工賃アップ、平均工賃 10,000 円」を目指し、取り組んでまいりました。

「個別支援計画の作成・実施」については、目標までの道のりを細分化し、改めて一歩ずつ進めるように支援を検討実施し、支援の記録も含め評価を行いながら進めていきました。例えば、「アパート清掃の準備が一人で出来るようになる」と、目標を立てたご利用者に対して、複数ある準備を5つの項目に分け、その中で2つの項目が出来るようになる事を具体的な目標として練習を行いました。準備する物、時間や当番表を可視化し、ご利用者自身で出来る様に支援者の関わりもご様子を見ながら少しずつ減らして行きました。関わりが減ると自然と分からない時に相談する、終わったら報告する機会が作られ、1年かけて少しずつ定着出来るようになっております。

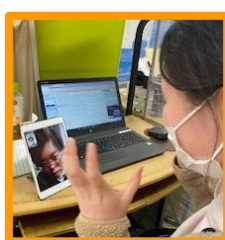
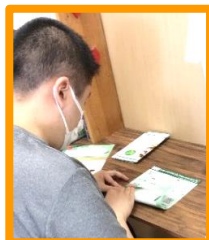
このように、目標達成が出来そうな事柄を設定したことで、ご利用者自身が出来た事を実感しやすく、経過としても実践した事への効果がわかりやすくなりました。

また、コロナ禍が長期化し変則的な通所日程やご自宅で過ごす事が多くなり表出された課題について、ご利用者を中心にご家族やその他関係者の方と相談をしながらご本人が安心安全に暮らせるように個別課題への取り組みも行いました。生活の中で困っている課題に対し、時計を読む練習やコミュニケーションの機会を設定した事で、ご本人の自信につながり自主的に練習を行う姿も見られました。

在宅支援においても、毎週行う電話連絡等で会話の習慣が付き、今まで単語で伝える事が多かった方が2語文、3語文で伝える事が出来、文章で相手に伝える練習を行い、コミュニケーションや自己表現する力が高まった効果も見られました。

「工賃アップ」については、残念ながら平均工賃 10,000 円は届きませんでした。室内作業では今までの単価から4割さがった作業や、メインで行っていた作業が激減する事がありましたが、代替えとして新しい取引先を獲得したり、自主での販路拡大、新商品開発を進めたことにより、昨年よりも下がらずに収入額を持ちこたえた事は大きな成果でした。月ごとに新しい作業へ変わるなど状況がめまぐるしく変わっていく中でも、作業に対し前向きに取り組まれるご利用者の姿もとても成長を感じる事が出来ました。10月に取り組んだ封入作業では、当初の5万枚であった数量を大きく上回り、1か月弱で7万枚納品することが出来ました。「やれば、出来る！」を実感した出来事でした。

自主製品販売ではネット販売も始まりました。少しずつ出品数を増やして売上に貢献出来る様に進めて行きたいと思っております。



## ☆1年間を通して(生活介護)☆

この1年間生活介護では新型コロナウイルス感染症の為、様々な活動を中止しなくてはなりませんでしたが、しかし、その中でも、調理や作業、音楽療法ではなるべく密にならないよう利用者の皆様楽しく活動をしていただけるよう声掛けをさせていただきながら活動をしてきました。

指サックの作業ではアルコール布巾で手指の消毒をしながら、各自分担されたお仕事(指サックの封入や指サックを袋から出す作業)を最後まで頑張ってくださいました。

音楽活動では、12月のクリスマス会に向けて各自が担当をしていた楽器を練習していただきました。クリスマス会当日での音楽活動では練習の成果を発揮されとても綺麗に演奏をされていました。

活動を通してこの1年間では生活介護の皆様一人ひとりがご自分の役割を認識されて行動をされていました。例えば、指サックの作業では「〇〇さんは指サックを袋から出す担当」「〇〇さんは指サックを封入する担当」と役割を各自が認識されていました。役割を認識されたことで、活動を終わった時に達成感を感じることができたようで、それと同時に活動をさらに楽しめるようになったようです。来年度には皆様一人ひとりの活動の内容をもっと充実させられるよう、職員一同活動の内容を話し合い考えていきます。来年度も生活介護をよろしくお願いいたします。

